全国児童委員・主任児童委員活動研修会に参加して

入間市　豊岡第二地区民生委員・児童委員協議会　主任児童委員　生田由紀子

委員歴：17年2ヶ月

令和6年8月22日から23日にかけて、「令和6年度全国児童委員・主任児童委員活動研修会」が千葉県千葉市のTKPガーデンシティ幕張・東京ベイ幕張ホールで開催されました。この研修会には全国から152名が参加し、埼玉県民生委員・児童委員協議会からは評議員と主任児童委員副部会長の2名が出席しました。初日は共通プログラムとして行政説明、事業説明、講義、パネルディスカッションが行われ、夜には交流会も開かれました。2日目は児童委員と主任児童委員に分かれての分散会が実施され、グループワークを通じて意見交換が行われました。

**研修の内容**

**行政説明と事業説明**

1日目の行政説明では、こども家庭庁成育局の高根沢景氏が「こどもの健全育成と主任児童委員活動～多機関との連携協力～」をテーマに講演しました。こども基本法やこども大綱などの政策がどのように成り立ち、子ども・若者の声を反映する仕組みが構築されているかについて説明され、私たち児童委員・主任児童委員が子どもの声を聴き、周囲に伝える役割の重要性が改めて強調されました。

続く事業説明では、全国社会福祉協議会の平井庸元氏が「主任児童委員制度創設30周年を迎えた制度・活動の振り返りと今後の活動推進について」中間報告を行いました。制度創設から現在に至るまでの社会情勢の変化や、主任児童委員と児童委員との連携を基盤とした活動の強化が必要であることが指摘されました。

**講義とパネルディスカッション**

泉谷朋子准教授（聖隷クリストファー大学）による講義では、主任児童委員がこどもの声を代弁し、関係機関と協力して地域の子育てを支える役割が示されました。児童委員との連携や、地域住民の声を聴きながら地域の課題解決に向けた取り組みを進める重要性が述べられ、自分の活動を見つめ直す契機となりました。

午後のパネルディスカッションでは、泉谷氏を進行役として4名のパネリストが登壇しました。各地域での事例紹介を通じ、周知活動や地域住民との交流が主任児童委員活動のヒントとなることが共有されました。中でも「まずは聴くこと」「共有すること」の重要性が強調され、人と人との関係性を深める姿勢を学びました。

**分散会での学び**

2日目の分散会では、参加者が6～7人のグループに分かれ、泉谷氏の講演をもとに意見交換が行われました。各地域での取り組みや課題を共有し、主任児童委員が地域住民や自治体と協力して子育て支援を推進する方法について議論しました。また、「主任児童委員、生かすも殺すも会長次第」という発言が印象的で、会長との信頼関係を築き、情報を共有することが活動をさらに効果的にするとの意見がありました。

さらに、市町村の子育て支援策として出生届や母子手帳交付時に家庭訪問を行う事例が紹介され、地域とのつながりを深める具体的な方法が示されました。

**伝えたいこと**

研修を通じて、主任児童委員の役割を改めて認識しました。子育て中の家庭や子どもの声を丁寧に聴き、多機関や地域と連携して問題を解決することが求められています。また、児童委員・主任児童委員が互いに支え合い、一人で抱え込まずに相談し合える環境づくりの重要性も実感しました。

主任児童委員制度創設30年の節目に、これまでの成果を振り返ると同時に、地域に根差した活動を進める決意を新たにしました。この研修で得た学びを活かし、今後も連携を強化して「こどもまんなか社会」の実現に貢献していきたいと思います。